2017年1月度 建築音響研究会 開催報告

1 月度の研究会は東海市芸術劇場にて開催しました。研究会のテーマは一般で、拡散音場と生命 現象について生体のサイズと代謝量の関係を踏まえた生化学的視点からの検討、親密感と空間感を 重視した走行式反射板を有する東海市芸術劇場の音響設計など、音場の拡散性や東海市芸術劇場の ホールの音響設計に関する 2 件の発表がおこなわれました。34 名の参加者により、活発な質疑討論が行われました。さらに、研究発表の後、施設見学会とミニ演奏会が開催されました。演奏会では、幕の有無や舞台上の異なる位置での演奏を比較試聴するなど建音研ならではの企画も実施されました。全体として大変有意義な研究会となりました。今後も引き続き、積極的な話題提供と研究会への多数のご参加をお願い申し上げます。

■ 開催概要

日 時 平成 29 年 1 月 26 日 (木) 13:30~17:15

場 所 東海市芸術劇場 2階 会議室1

〒477-0031 愛知県東海市大田町下浜田 137 番地

参 加 者 34 名











■ 発表題目および内容概要 (テーマ:一般)

※以下の概要は建築音響研究会資料の「内容概要」から転載したものです

1. 拡散場と生命現象(Ⅲ) -生体のサイズと代謝-

○久野和弘

【概要】生物の生命現象は物質及びエネルギーの代謝により支えられている。生体内における代謝のプロセスを概観し、生体のサイズとエネルギーの関係について考察する。空間的及び時間的サイズ(体積及び周期)は内部エネルギーのそれぞれ3/4乗及び1/4乗に比例することを示す。また、生体の質量とエネルギーの間の比例関係についても言及する。

2. 東海市芸術劇場の音響設計 - 親密感と空間感を重視した走行式反射板を有するホール - ○高橋顕吾、山下真次郎、岸永伸二 (ヤマハ)

【概要】東海市は名古屋市に隣接するとともに交通の要衝でもあり、本劇場は同市および近隣の市民利用を前提としながら本格的な舞台芸術の公演まで対応できる施設として計画された。中核をなす大ホールは見やすさ・使いやすさを優先した舞台・客席構成とした上で、走行式反射板・プロセニアム昇降壁等の可変機構の導入と室形状の最適化により、舞台との親密感(音量と明瞭性)に加えて音楽利用時の空間感(残響や拡がり感)の向上を図っている。多目的ホールはシンプルな直方体の平土間空間をベースに可動観覧席、昇降床や舞台幕・吸音カーテン等により、様々な地域イベントに対応可能な多機能性を確保している。

☆建築音響研究会の別刷(バックナンバー)に関する問合先:

担当幹事 (http://asj-aacom.acoustics.jp/backnumber.html) までご連絡下さい。